題字:石野 華鳳 (書家 小松市出身)

Franch happy known now

小红维美

第17号

安心と思いやりを大切に

会長 和田 慎司

滋賀県の保護司の方が事件に巻き込まれ亡くなる悲報が届いた。長年の活躍に敬意を 表し、衷心よりお悔やみ申しあげます。

現在法務省で検討されている再発防止策は近く私どもの活動にも導入される見込みです。当保護区と しては皆さんの安心を高めるために、独自に次の2項目を試行します。

- ①一人での面接に不安がある場合、複数保護司で対応できるよう調整します。
- ②自宅での面接に不安がある場合にカフエやレストランを利用した場合、経費の一部を負担します (サポートセンターは土曜祝日以外利用可能)。そして、より安全に対象者とゆとりをもって面接等対 応できるよう観察所と善処していきます。

さて今、最も気がかりなことは若者が関わる詐欺犯罪が増々複雑化深刻化していることです。6月の社 明運動住民大会でも触れましたが、若年層が非行や犯罪に加担しない知識や判断力を養い、自立でき る社会人となるよう私たちもご家族や教育界と考え抜きましょう。

小松大谷旋風は猛暑も吹き飛ばす爽やかな夏の思い出となりました。小松能美地区の若者たちが友 人や家族のチカラを得て困難に立ち向かい、道を外すことがないよう、私たちも保護司信条をモットーに 全力応援しましょう。

令和6年度 保護区定期総会

令和6年度定期総会は、5月21日(火)午後4時10分から石川県市町村職員共済組合保養所おびし荘で開催されました。出席者31名と委任状10通で総会は成立し、和田慎司保護区会長の挨拶に続き、ご臨席いただいた三角元金沢保護観察所長にご挨拶をいただき、小松市長、能美市長、川北町長からのメッセージが朗読されました。引き続き、議長の東木保護司のもと令和5年度の事業報告、会計決算を承認し、以下のとおり令和6年度の事業計画、会計予算案が提案され、すべて可決承認されました。

1 新年度の新たな事業

- ・7月の社会を明るくする運動に合わせて保護区管内の住民大会
- ・警察現場での事件の傾向や罪を犯した者の心理状態に関する特別研修(昨年度に続き新たな取り組みに挑戦―政府も取り組みを強化している再犯防止に向けて)

2 重点目標

保護司の安定的な確保に向けた取り組みを行う

3 予算

活動助成金の増額(保護司活動の根幹をなす各部会活動の活性化と強化を図る目的一部会を通じて保護司間のコミュニケーションを図り、保護司会活動への参加を図る)

当日は、毎年開催してきた自主研修と新年会が1月1日の能登半島地震の発生で延期としていたことから、自主研修に続いて総会を挟み、保護司会の懇親会を開催して親睦を深めることができました。

持続可能な保護司制度の確立について

~なぜ保護司の定員確保が求められるのか。 保護観察件数、人口減少の中で~

金沢保護観察所長 三角 元

平素から更生保護の諸活動に御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。 昭和25年に保護司法が制定されて、現在の保護司制度の骨格が作られて以降、全国の保護司は「人は変われる」という信念のもと、同じ地域に住む隣人の一人として、罪を犯した人や非行のある少年たち個々の立ち直りを支援する処遇活動を行うとともに、広報啓発や犯罪予防活動などの地域活動にも積極的に取り組んでいます。

喫緊の大きな課題として、石川県では現在約500人の保護司が活動されておりますが、今後10年間で約半数の保護司が定年によって退任される見込みです。現在、保護司会、保護司会連合会等では、地域から情報を収集するため保護司候補者検討協議会、保護司活動インターンシップ、保護司活動を御理解いただくための保護司セミナーを開催し、担い手の確保に尽力いただいております。

昨今、刑法犯認知件数はピーク時の約4分の1となり、保護観察事件数もほぼ同様に減少している状況ではありますが、処遇困難者の割合が増加していること、直近では刑法犯認知件数の増加など今後の社会情勢の変化に即応しなければならないこと、また、保護観察処遇、地域活動を円滑に行うためにも、引き続き適任者を確保していくことは必要だと考えます。事件数が下げ止まりの現状をチャンスと捉え、関係機関団体と一層連携を強化していただき、保護司の適任者確保、地域活動の充実を期待するところです。



小松能美保護区を担当して

金沢保護観察所 むらしま ゆうじ 企画調整課保護観察官 村島 侑至

保護司をはじめとした更生保護ボランティアの皆様には、平素から更 生保護に深い御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

私が地区主任官業務に従事するのは2年ぶりとなります。主任官として常日頃から感じる事は、我々の仕事には保護司の存在が不可欠であるということです。

以前担当した対象者が「保護司の先生がいたから私は変われた。」と話したことがあります。私はこの言葉をきいて、保護司の「人を変える力」に感銘を受けたことを今でも覚えています。現在も多くの対象者が保護司との関わりの中で更生していく姿を見て、保護司の影響力を強く感じています。

今後とも更生保護行政への御協力をよろしくお願いいたします。

「感謝の気持ちて」

チャリティ協力作家(陶芸) 北村 和義

父も九谷焼の作家をしている のですが、九谷焼をやれと一度 も言われた事はなかったですし、 教わった事も一度もありません でしたが、子供の頃から絵を描 く事が好きで漫画家さんになり たいと思っていました。

「絵が好きだから美術系の大学行ってみようかな」と思いたって美術系の大学に入り、そこで初めて土を触りました。

陶芸って面白いなぁと思い、より専門的な勉強をするために能美市にある九谷焼技術研修所に入り、人生で初めて作った九谷焼に「私にも九谷焼が作れた!」と一気に心を奪われて、そこから毎日学校が閉まるまで作り続けていました。

卒業し10年ほどは中々上手く 行きませんでしたが、九谷焼が 好きだったので仕事が無くても 絵を描き続けていたところ、 徐々に個展依頼も増えてきて今 では1年に10回の個展をさせて 頂けています。好きな事を仕事 に出来る感謝の気持ちで頑 張っていこうと思います。





第74回社会を明るくする運動 松能美地区住民



7月1日から全国的に第74回社会を明るくする運動の強調月間が始まりました。今年は、更生保護制度 施行75周年となる記念すべき年でもあります。小松能美地区の保護司会では、これまで支部ごとに所管 の市役所、町役場を訪問して内閣総理大臣のメッセージ伝達を行ってきました。しかし、近年の犯罪傾向 に鑑み地域の住民に犯罪予防の重要性と更生保護を広く知ってもらう目的で、保護区内の更生保護関係 者を中心に2市1町を対象にした住民大会を6月29日出午前9時45分から石川県小松市團十郎芸術劇場 うららで開催しました。





和田会長あい



総理大臣メッセージ伝達



オープニングセレモニーで、地元小松市立高等学校合唱部の「おおシャンゼリゼ」と「いのちの歌」の 2曲が披露されました。

式典では、和田会長が開会にあたり大会開催の趣旨や更生保護に対する思いを述べ、次に福島犯罪 予防活動部会長が内閣総理大臣メッセージを朗読し、3市町の市長、町長とそれぞれの議会議長に伝達 しました。

さらに大会をより印象のあるものとしたく、日本更生保護協会が毎月発刊しています「更生保護 | 1月 号に掲載されたピアニスト西川悟平氏の随想に感銘した和田会長の熱烈なオファーで、多忙な西川氏に 快諾をいただき「トーク&ピアノコンサート」が実現しました。

公演では、自らのニューヨークでの体験や壮絶な人生をユーモアたっぷりに話され、その間にピアノ演 奏、また立ち上がってのトークと、来場者を飽きさせない抜群のセンスで聴衆を魅了しました。公演最後 に、会場内の最前列で聴講していた小松市立高等学校合唱部の生徒とのコラボ「ふるさと」を合唱しま した。西川氏の伴奏で合唱した高校生にとっては、夢のような共演が叶いました。一瞬にして美しい歌声 と情熱的な伴奏に会場が感動で静まり返りました。大会に参加された一般の方々や更生保護に関わる方 にとって意義ある大会となりました。こうした大会の開催により社会を明るくする運動が広報され、更生 保護への関心が高まることを期待しています。



第74回 社会を明るくする運動1 R 4 駅街頭キャンペーン



令和6年7月8日、社会を明るくする運動の啓発キャンペーンとしてIR4駅、小松・明峰・栗津・能美根上各駅にて早朝より約1時間、保護司36名、更生保護女性会会員11名で行いました。のぼり旗を掲げ、昨年より着用している揃いのベストで更生保護の啓発チラシとポケットティッシュを、朝の挨拶とともに駅を利用される方々約2,000人に配布しました。今年で8回目になりますが、更生保護活動は犯罪や非行を防止する活動、罪を犯した人たちの立ち直りを支える活動であること、そのためには地域の支援、協力が不可欠であることを少しでもお知らせできたのではないかと思います。

【犯罪予防活動部会長 福島 日出夫】



※※※※●第47回●有名作家チャリティ作品展響



社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリ ティ作品展が、7月26日~29日まで金沢エムザ2階「エム ザギャラリー」にて開催されました。

本運動の趣旨にご賛同いただいた県内の有名作家 に作品をご寄贈いただき、作品は来場者の入札により、 その売上金は罪を犯した人々の更生援助や犯罪予防 活動に役立てられます。

県内有名作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、 熱心に見入る来場者の姿が見られました。

ご寄付され た地元作家の 皆様、お世話 された保護司 有志の方々に、 厚くお礼申し 上げます。



「寄贈された方々」

(敬称略)

◆工芸の部

三ツ井為吉 浅蔵五十吉 打田 幸生 浮田 健剛 山中 国盛 高 権成 北村 鶴代 中田 一於 吉田 美統 田村 敬星 北村 降 北村 和義 徳田八十吉 村中 暁美 北村 英昭 糠川 孝之 米田 山岸 大成 和 寺田ひかり

◆絵画の部

八十山和代 山本 勇 田方 勇 長八 東 孝太郎 池岡 信 北 松村 芳明 西房 浩二 斉藤 敏明 阿部 正子 小西 明人 山崎 綾乃

◆書の部

都賀田久馬

元 山 洋

保護司になって良かった! 多くの方々との出会いと貴重な経験!

ある保護観察少年の引受人である父親から「本人は結婚し子どもも生まれ、自分の会社を 立ち上げがんばっている。その節は本当にありがとうございました。」とお聞きした時はとて も嬉しくなり、保護司になって良かったと思いました。

定年退職間近のある日、先輩保護司二人の方からのお誘いで全く思っていなかった保護 司に。自分にはできるだろうかと不安な中、活動開始。あっという間の16年間でした。保護観 察・生活環境調整の担当時は各人の思いを大切し「信じて待つ」を胸に刻み対応してきまし た。そんな中、心が折れそうになったことや今後どうしたらよいか悩むことが何回もあり、ま た、保護観察所から電話があるとドキッとしたことも。でもそれ以上に多くの方々との出会い、 保護司活動や保護区の役員・活動をはじめ多くの経験と喜び等自分のためにもなり、人生の 貴重な財産となりました。皆さま方に感謝申し上げます。

退任 髙畠 明美

小松能美保護区保護観察件数等/8月1日現在の増減比較数

単位(件)

種 別	1号	2号	3号	4号	生活環境調整
	家庭裁判所で保護観察処分を受けた者	少年院から仮退院を 許された者	刑務所から仮出所を 許された者	刑事裁判所で刑の執 行を猶予され保護観 察に付された者	矯正施設に入所して いる者に関する生活 環境の調整
令和5年	6	0	3	2	17
令和6年	6	1	3	4	13
増 減	0	1	0	2	-4

最近の保護観察件数等の動向

生活環境調整事件から保護観察事件への移行に伴い、生活環境調整事件が減少し、保護観察事件がやや増加となった。

教育現場からの声



小松市教育委員会 教育長

山本 民夫

小松能美保護区保護司会の皆様には、長年にわたり「社会を明るくする運動」の啓発活動をはじめとした更生保護ボランティアに取り組まれ、青少年の健全育成に向けたご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。

スマホ等の情報端末の普及や長期化した新型コロナウイルス感染症の拡大が、地域社会とのコミュニケーションの場を奪うことになりました。さまざまな「教育課題」は、学校や家庭だけでは解決できない深刻な問題が多く、学校・家庭・地域の連携した取り組みが極めて有効であると考えられます。

学校や家庭、そして地域が一丸となって、未来を担う青少年の心を育むことが大切であると考えており、貴会の活動がその基盤を支え、私たちの教育活動にとっても非常に心強い存在です。

今後とも、地域の安全と安心、そして青少年の健全育成に向けて共に歩んでいけることを願っております。貴会の皆様のさらなるご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

小松支部だより

今年も恒例の社明作文コンテストの募集が始まりました。 小松支部では、各分区ごとに小中学校を訪問して社明啓発 と同時に作文コンクールへの作品応募の依頼をしています。

南分区では、分区長と庶務とで10校を廻りました。ほとんどが突然の訪問であったため、「責任者(担当教員)に依頼文等の資料をお渡しください。」と伝えるのみにとどまった学校もあり、今年も提出数が少なければ、来年は依頼文を事前発送し訪問日を連絡することや、グループ分けし緊密な訪問を可能にすることなどを考えていきたいと思います。

能美支部だより

今年の社会を明るくする運動は、総理大臣メッセージ伝達が保護区の住民大会で行われることになり、支部では学校訪問やポスター掲示などの啓発活動が中心となりました。

例年、支部内15の小中学校と県立寺井高等学校を訪問し、 学校長と懇談をして、社会を明るくする運動への理解を求め ています。また、能美市役所と川北町役場には1か月間、啓発 ブースを設置していただき、住民へのPRにつながっています。

強化月間に入る前の6月4日には、運動の取り組みについての会議を開催しました。そして、引き続き自主研修として、この5月24日に退任された前支部長の元山洋さんをお招きして、長年保護観察に携わって来られた経験談をお聞きする機会を設けました。保護司を引き受けた当時の思いや保護観察をしてきた中で感じたこと、そして、大変な仕事だと思った中でも、せっかく保護司という仲間と知り合えたことで、楽しく活動していくことをモットーにされていたことなどをお聞きすることができました。

その後、会場を移して元山さんを囲んで、送別会を開催しました。元山さんとの懐かしい話に会場は和やかな雰囲気に包まれ、本当に楽しいひと時を過ごすことができました。

編集後記

令和6年6月29日に行われた『第74回社会を明るくする運動小松能 美地区住民大会』は、保護司会や更生保護女性会・BBS会など『更 生保護』に関わる団体が一体となって開催した素晴らしい大会でした。 小松市立高等学校合唱部による合唱、世界的なピアニスト西川悟平 氏のトーク&ピアノコンサート・・・。本当に素敵だった。毎年開催は難し いが、数年に1度このような大会を開催できればと思う。この大会が、 『更生保護』の活動への理解促進の一助になったとも思っている。素 晴らしい大会だったからこそ、地域の住民の方々にもっとお声かけでき ればと考えたりもする。 (荒木 達人)



※お問い合わせ 事務局 TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108 E-mail hogoshikai@aqua.plala.or.jp URL http://hogoshikai.org

発行日 令和6年9月20日

発 行 小松能美保護区保護司会 広報部会

印刷 マルト株式会社

